

エコアクション21 環境経営レポート

Environmental Activities Report of Kawashima Industry Co Ltd.

(活動期間：令和6年5月1日～令和7年4月30日)



川島工業株式会社

Kawashima Industry Co Ltd.

発行 令和7年6月13日 Ver. 1

ご挨拶

Greeting

川島工業株式会社は昭和 40 年の創業以来、館林の地で精密機械加工部品の製造一筋に歩んで参りました。

平成 5 年、企業規模の拡大にともない館林市近藤町に生産拠点を移し現在に至っております。当工場は、次ページの環境経営方針が示すように恵まれた自然環境にあります。

地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割としてとらえ、エコアクション 21 を 2012 年 8 月認証取得、継続しております。

取り組んだ結果を「環境経営レポート」にまとめましたので、ご高覧頂き、ご指導・ご指摘等よろしくお願い致します。

川島工業株式会社

代表取締役 川島敏明

目次

Table of contents

1、事業活動の規模	P1
2、E A 2 1 推進体制	P2
3、環境経営方針	P3
4、環境経営目標	P4
5、環境経営計画及び実施事項	P5
6、環境経営目標及び実績・取組結果	P6
7、環境関連法規の遵守	P7
8、代表者による全体評価と見直し	P7

1、事業活動の規模

Scale of business activities

1. 組織の概要

事業者名 川島工業株式会社
代表者氏名 代表取締役 川島敏明
所在地 本社（登記上）
〒374-0024 群馬県館林市本町一丁目 8 番 8 号
近藤工場
〒374-0042 群馬県館林市近藤町 657 番 3 号
環境管理責任者 専務取締役 川島美則
環境担当者 事務局 川島宗隆
責任者連絡先 TEL 0 2 7 6 - 7 2 - 5 0 1 9
FAX 0 2 7 6 - 7 2 - 5 2 2 8
URL <http://www.kawashimakougyou.co.jp>
E-mail info@kawashimakougyou.co.jp
事業内容 マシニングセンタ、フライス盤、旋盤等による
精密機械加工部品の製造

事業規模

活動規模		単位	2022 年	2023 年	2024 年
従業員数		人	22	22	21
床面積	敷地	m ²	3, 699	3, 699	3, 699
	建物	m ²	1, 854	1, 854	1, 854



2. 対象範囲・レポートの対象期間

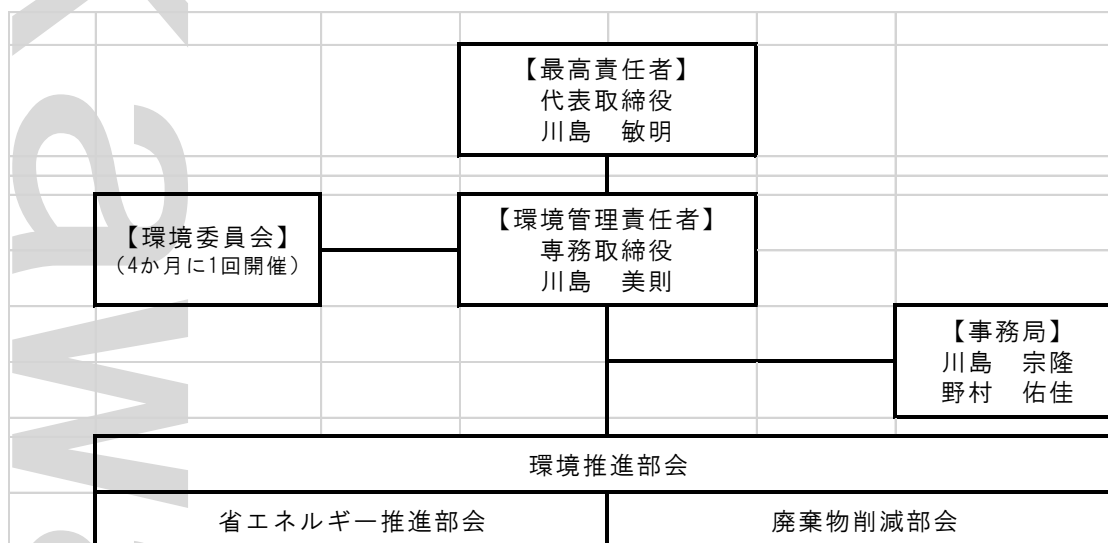
対象範囲 川島工業株式会社 全組織、全活動
レポートの対象期間 令和 6 年 5 月～令和 7 年 4 月（当社事業年度）

2、エコアクション 21 推進組織図

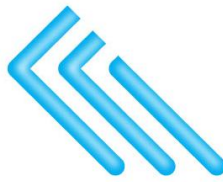
(2011 年 10 月 1 日 作成)

(2018 年 5 月 14 日 更新)

承認	作成
川島 美	野村



職名	役割
最高責任者	【代表取締役 川島 敏明】 <ol style="list-style-type: none"> ① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ② エコアクション 21 の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③ 環境経営方針を制定する。 ④ エコアクション 21 の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	【専務取締役 川島 美則】 <ol style="list-style-type: none"> ① エコアクション 21 に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ② エコアクション 21 の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	【川島 宗隆・野村 佑佳】 <ol style="list-style-type: none"> ① 事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション 21 に関する実務全般を所管する。
環境委員会	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部会長で構成し、4 か月に 1 回環境管理責任者が召集する。（但し、3 か月連続未達成時には、その都度開催とする。）環境経営目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。



3、環境経営方針 Ver. 11

Environmental policy of Kawashima Industry Co Ltd.

基本理念

Basic principles

当工場は館林市の西部に位置し、近くに近藤沼や多々良沼を有し、冬には白鳥の飛来する大変恵まれた自然環境の中に在ります。この静かな環境の地で、精密機械加工部品の製造、組立等を行っております。

このような日々の事業活動を通じて当工場働くすべての人が、生物多様性の保全及びCO2 排出量削減⑪に積極的に取り組み豊かな自然環境との共生、調和を目指し地域社会に貢献します。

基本方針

Basic policy

- 1、事業活動が環境に与える影響の中で下記の項目を重点テーマとして優先的に活動し環境保全と汚染防止に取り組む。
- 2、事業活動にかかわる環境汚染の予防を推進すると共に環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。
- 3、事業活動にかかわる環境関連法規、規律、当工場が同意するその他の要求事項を遵守する。
- 4、環境経営目的・目標を設定し、計画的に実施するとともに状況に応じて目的・目標のレビューを行う。
- 5、当工場働くすべての人が環境経営方針を認識し、方針に沿った行動を行うような適切な教育を行う。

重点テーマ

Emphasis theme

- ① 省エネルギーの推進（地球温暖化対策…CO2 排出量の削減⑪）
- ② 廃棄物の削減（リデュース・リユース・リサイクルの 3R を推進）
- ③ 化学物質排出量の削減（化学物質の適正管理）
- ④ グリーン調達推進（RoHS 規制等、製品含有化学物質管理）
- ⑤ 生物多様性の保全に取り組む

トップマネジメント

代表取締役

川島 敏明

本方針は当工場働くすべての人に周知するとともに社外にも開示する。

4、環境経営目標

Environmental management goals

当社における 2019 年度（基準年・2019/5/1～2020/4/30）の環境負荷実績を把握し、
2024 年度～2027 年度迄の目標を下記の通り定め、活動しております。

主な環境経営目標

項目	基準年	今年度目標	次年度以降目標		
	2019 年度の 実績値	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
		目標	目標		
C02 排出量の削減 （電力）	160716 (kg-C02)	2024 年度 目標値見直し 133498 (kg-C02)	24 年度目標値 を維持 133498 (kg-C02)	24 年度目標値 を維持 133498 (kg-C02)	24 年度目標値 を維持 133498 (kg-C02)
C02 排出量の削減 (kg-C02/時間) (ガス)	10 (kg-C02/時間)	19 年度目標値 を維持 11 (kg-C02/時間)	19 年度目標値 を維持 11 (kg-C02/時間)	19 年度目標値 を維持 11 (kg-C02/時間)	19 年度目標値 を維持 11 (kg-C02/時間)
C02 排出量 (kg・C02) (絶対値)	25522 (kg-C02)	-	-	-	-
水道使用量 (上水道) の削減	443 (m ³)	前年度目標値 より 5%削減 399 (m ³)	前年度目標値 より 5%削減 379 (m ³)	前年度目標値 より 5%削減 360 (m ³)	前年度目標値 より 5%削減 342 (m ³)
廃棄物排出量削減	386 (kg)	2024 年度 目標値見直し 390 (kg)	24 年度目標値 を維持 390 (kg)	24 年度目標値 を維持 390 (kg)	24 年度目標値 を維持 390 (kg)
有機溶剤使用量の削減	359kg (14 缶)	前年度目標値 より 4%削減 460kg (18.4 缶)	前年度目標値 より 4%削減 440kg (17.6 缶)	前年度目標値 より 4%削減 420kg (16.8 缶)	前年度目標値 より 4%削減 403kg (16.1 缶)
社内不合格率の低減	0.47%	19 年度目標値 を維持 1.4%	19 年度目標値 を維持 1.4%	19 年度目標値 を維持 1.4%	19 年度目標値 を維持 1.4%

※C02 排出係数は、電力：0.505 を使用しています。（東京電力 2014）

5、環境経営計画及び実施事項

Environmental Management Plan and Implementation Items

当社における 2024 年度（2024/5/1～2025/4/30）の環境経営計画は以下の通りです。

取組目標	活動計画実施事項
① CO2 排出量の削減（電力） 2024 年度目標値再設定 （133498kg-CO2）	① 照明・PC 及び機械等、電源不要時の OFF を徹底 ② コンプレッサーのフィルター清掃
②CO2 排出量の削減（ガス） 2019 年度目標値を維持 （11kg-CO2/時間）	① 空調温度適正化・表示 ② エアコン稼働日数管理 ③ エアコンのフィルター清掃
③水道使用量 前年度目標値より 5%削減 （399 m ³ ）	① 毎月の上水使用量の集計 ② 節水の遂行
④廃棄物排出量の削減 2024 年度目標値再設定 （390kg）	① 分別ルール of 徹底 ② 3R の教育 ③ 材料梱包紙のリサイクル
⑤有機溶剤使用量の削減 前年度目標値より 4%削減 （460kg）	① 購入量の把握 ② 在庫及び使用量の管理（記入漏れ防止） ③ 製品の大きさに合わせた洗浄容器
⑥社内不合格率の低減 2019 年度目標値を維持 （1.4%）	① 不合格品情報の社内提示 ② 毎月品質会議を実施し、不良対策書の継続及び各自が発生させた不良の報告を行う ③ 朝礼時に不良や製作時の注意事項等の教育指導を行う

6、環境経営目標及び計画の実績・取組結果と ：その評価、並びに次年度の取組

Results of environmental management goals and plans,
Evaluation and initiatives for the next fiscal year

主な環境経営目標

項目	単位	目標値	実績値	達成 状況	評価・次年度の取組
C02 排出 量の削減 (電力)	kg-C02	133498	117083	○	評価：○ 目標設定から売上金額を切り離し、C02 排出量のみを目標値として再設定した ことにより達成できた。
C02 排出 量の削減 (ガス)	kg-C02/ 時間 (C02 排出量 kg-co2)	11 (33914)	10 (23480)	○	評価：○ 夏季はエアコン使用量が増え未達成と なった月もあったが年間を通しては目 標達成することができた。次年度も引き 続き削減に取り組む。
水道使用量 (上水道) の削減	m ³	399	207	○	評価：○ 洗い場の蛇口にシャワーノズルを取り 付け、節水対策を行ったことで前年度に 比べ使用量の削減ができた。次年度以降 もこれを維持できるように取り組む。
廃棄物排出 量の削減	kg	390	241	○	評価：○ 目標設定から売上金額を切り離し、廃棄 物排出量だけを目標値として再設定し たことにより達成できた。
有機溶剤使 用量の削減	kg (缶)	460kg (18.4 缶)	188kg (7.5 缶)	○	評価：○ 朝礼等での呼びかけにより全スタッフ の使用量削減への意識が定着化し、年々 使用量の削減ができています。次年度以降 も維持できるように取り組む。
社内不合格 率の低減	%	1.4%	0.41%	○	評価：○ 朝礼や定例会議及び作業指示書図面上 での不良への注意喚起により社内不良 削減の対策が取られ、達成できた。次年 度もスキルアップ講習を定期的に行い、 さらなる品質向上を図る。

7、環境関連法規の遵守

Compliance with environmental law and regulations

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

No		遵守項目	遵守状況
1	浄化槽法	年4回の保守点検及び第11条検査の実施	○
2	騒音規制法	特定施設の設置届出済（コンプレッサー2機届出）	○
3	振動規制法	特定施設の設置届出済（コンプレッサー2機届出）	○
4	廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物管理/マニフェスト管理 （マニフェスト交付状況報告済）	○
5	群馬県の生活環境を 保全する条例	公害防止責任者届出済 （コンプレッサー2機届出）	○
6	自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
7	高圧ガス保安法	高圧ガス貯蔵所の届出済	○
8	フロン排出抑制法	年4回の簡易点検及び法定点検の実施	○

2. 環境関連法規への違反、控訴等の有無

- ①当工場に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ②近隣住民からの苦情等は発生しておりません。

3. 生物多様性への保全の取り組み

- ①2024年度：下野の木、琵琶の木植樹

8、代表者による全体評価と見直し

Overall evaluation and Review by representatives

《今年度の取組評価と見直し結果》

昨年度までの結果を踏まえ、今年度からは売上金額を目標値設定から切り離し、排出量や使用量削減のみに焦点を当て、目標値を再設定したため、全項目において目標達成することができた。次年度も更なる活動を期待するが、達成が容易ではない項目が出た場合には、その都度部会を開催し、事務局と相談して改善策を検討すること。

《次年度の取組について》

次年度は新編成の部会メンバー2年目となり、昨年度よりも活発な意見交換を期待したい。また、全体会議を定期的に行い情報及び問題の共有化を行うこと。